

2・11 第 13 回建国記念の日(「紀元

節」)を考える市民集会

主催・「聖戦大碑」撤去の会

2015年2月11日(水)14時より

石川県教育会館 2階第1会議室・運営協力金 500円

私たちは建国記念の日(「紀元節」)を問題にし、毎年、天皇制と歴史認識について考えてきました。

今回は、昨今、大きな問題になっているヘイトスピーチ(差別的憎悪表現)です。昨年12月、最高裁は、在特会が「表現の自由」だとする上告を退け、ヘイトスピーチを人種差別と認め、賠償と街宣活動の差し止めを命じました。しかし、「朝鮮人を殺せ」と叫ぶデモや、ネット上の悪口雑言が続いているように、外国人に対する攻撃は収束していません。

私たちは、この問題は歴史認識と深く関わっていると考えます。そこで、京都朝鮮学校裁判を中心にヘイトスピーチで知られる在特会など行動保守運動について、二〇〇九年より五年ほど調査をしてきた斉藤正美さんに、ヘイトスピーチの現状とその背景にある保守運動の動きについて、お話していただくことにしました。

聞くに堪えない言葉の暴力や差別扇動から目をそむけることなく、現実を見据え、ともに差別のない社会を目指しませんか。

ヘイトスピーチと排外主義運動

講師 斉藤正美さん

富山大学非常勤講師(性・ジェンダー)、富山県立保育専門学院・厚生連高岡看護

専門学校・高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所、非常勤講師(社会学)

斉藤正美さんは、お茶の水大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士(学術)。専門は社会学、メディア研究、社会運動研究、フェミニズム研究。

関連著書には『社会運動の戸惑いーフェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』(共著、勁草書房)。関連論文には、『「京都朝鮮学校街頭宣伝差し止め等請求事件」とヘイトスピーチ』『a-synodos』2013年10月。「問われる社会のかたち 止まらないヘイトスピーチ排外主義運動 北陸でも」『北陸中日新聞』2014年10月4日。「勢いづく『慰安婦』否定パネル展』『週刊金曜日』2014年10月など。コアプロジェクト@富山・運営委員。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

「聖戦」イデオロギーに反対し、東アジアの市民との連帯を！！

「大東亜聖戦大碑」の撤去を求め、戦争の美化を許さない会(「聖戦大碑」撤去の会)

金沢市西念3-3-5石川県勤労者福祉文化会館5階・石川県平和運動センター内